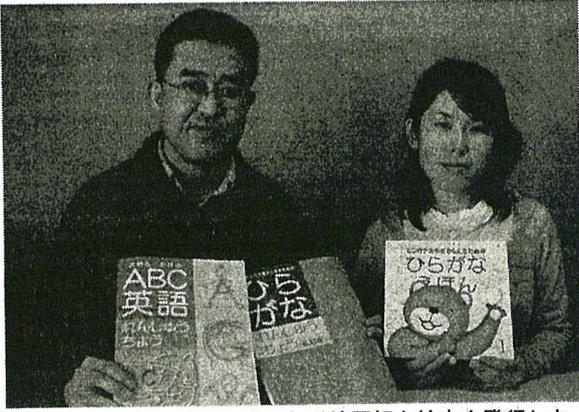


つくば学習教材と絵本出版

つくばの子どもたちのつまずきに着目

不登校や学習障害児の教室を運営しているつくば市のNPO法人「リヴォルヴ学校教育研究所」(小野村哲代表)が、ひらがなやアルファベットを初めて覚える子どもたち向けの練習帳と絵本を発行した。子どもたちのつまずきを軽減、回避するための教材で、このうち、ひらがな練習帳は、文部科学省が特別支援教室の教科書に認定するなど専門家から高く評価され、全国の幼稚園や小学校で活用されている。同NPOはさらに、教材の販売収益をもとに、地域の小中学校に社会人講師を派遣する事業にも取り組んでいる。



ひらがなとアルファベットの練習帳と絵本を発行したNPO法人「リヴォルヴ学校教育研究所」の小野村代表(左)ら

発行したのは就学前の幼児向けの「ひらがな しゅうちょう」(二〇〇五年三月、いばらきマナビィ・ネット発行)、「もじのかたちをとらえるためのひらがなえほん第一巻」(〇六年十月、同)と、小学四、五、六年生向けの「ABC英語 れんしゅうちょう」(〇六年三月、同)の三冊。元教師の小野村代表が、子どもたちがどのような場面でつまずくの

かに着目。つまずきの原因を分析し、約二十年間の積み重ねを教材にした。

「ひらがなの「へ」と「へ」の違いや、アルファベットの「b」と「d」の違いを区別できずにつまずいてしまったことがきっかけで、不登校になったり、持っている力を発揮できない子どもたちが少なくなかったという。「ひらがなれんしゅうちょう」は、五十音順ではなく、「へ」「ん」と「ぬ」などのように、形が似ている文字同士をグループ化しているのが特徴。文字の形を目で覚えさせるだけでなく、「へ」「ん」は「とんがりお

はな」「へ」は「とんがりまゆげ」など言葉

とイラストで表現し、文字の形の違いを目と耳で覚えられるようにしてある。さらに「あきのこうえん」など単語の組み合わせから、別の単語の「きのこ」を探し出す言葉探しゲームなどもある。文字の羅列の中から意味を見いだす力や読解力を伸ばすものという。

社会人講師派遣事業は、これらの教材の販売収益をもとに地域ポータルサイト「いばらきマナビィ・ネット」を設立して実施。派遣経費のうち最大80%を助成している。詳しくは電話029・856・8143(リヴォルヴ学校教育研究所)へ。

この絵本「もじのかたちをとらえるためのひらがなえほん1」=写真=がこのほど、つくば市のNPO法人「リヴォルヴ学校教育研究所」から発行された。同書は、発売開始から1年余りで1万部を超える大ヒットとなった「ひらがなれんしゅうちょう」の絵本版。全5巻発行予定。前半はひらがなの読みに重点を置き、後半は言葉遊びを通して文字を意味につなげる工夫がされている。28頁、オールカラー、798円。なお、同NPOは本発行の収益をもとに、「学びの地域ポータルサイト・いばらきマナビィ・ネット」活動の一環として公立小中学校への社会人講師の派遣などに取り組んでいる。問い合わせは同NPO事務局(☎029・856・8143)へ。http://www.nabee-net.org/



2006. 11. 24
よみうりタウンネットより

ひらがなえほん出版
リヴォルヴ学校教育研究所

動物たちが繰り広げるテンポの良い物語を通して、ひらがなを習熟しようと